

いばらきネットモニター 薬局に関する調査結果

1 調査目的

薬局に関する利用状況等について調査を行い、薬局の有効活用にあたっての課題を把握することにより、今後の施策のための基礎資料とするものです。

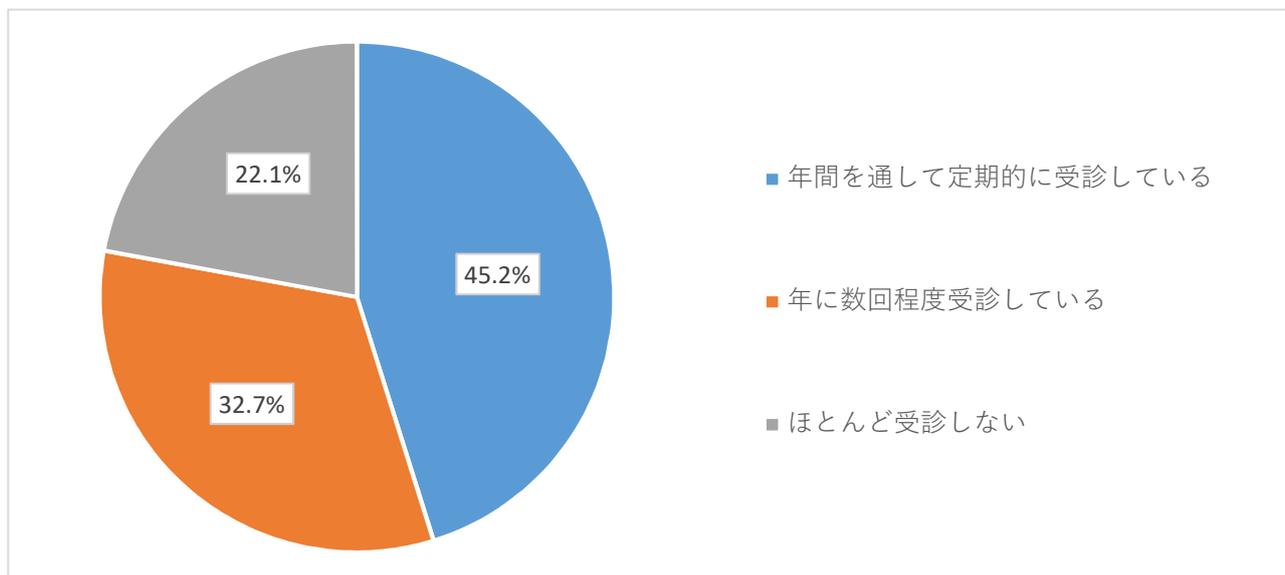
2 結果の概要

- ・かかりつけ薬局は広く認識されているが、実際に利用している方は約4割であった。
- ・かかりつけ薬剤師、健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局、薬剤師の在宅訪問については、認知度が1～4割程度と低かった。
- ・お薬手帳については、8割以上の方が適切に利用していた。

【問1】（医療機関の受診頻度）

あなたは、どのくらいの頻度で医療機関を受診しますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=892)

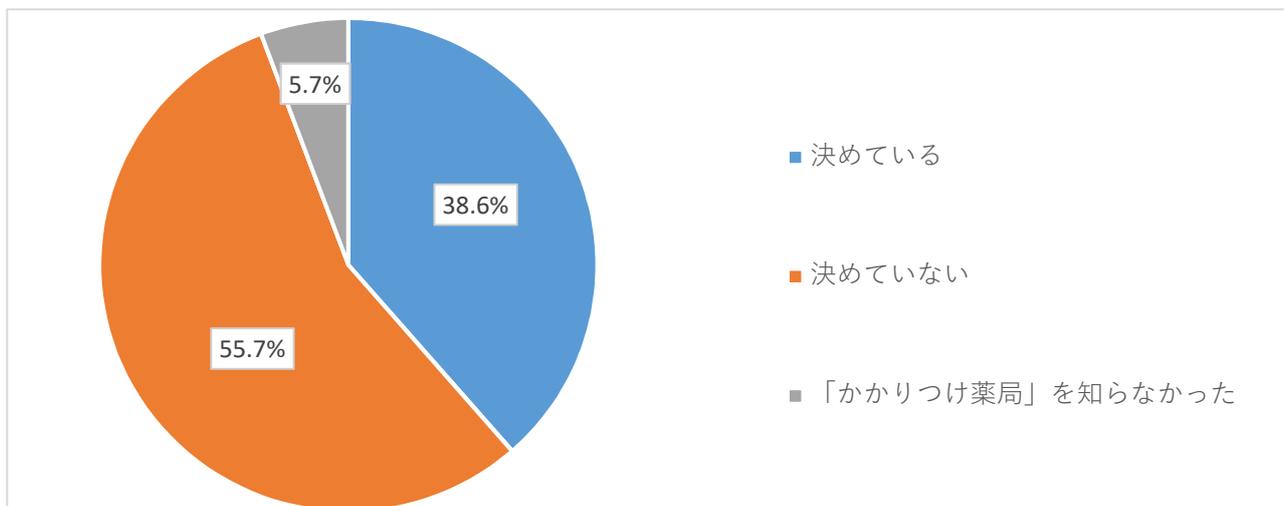


○ 調査にご協力いただいた皆様の医療機関の受診頻度は、「年間を通して定期的に通診している」が45.2%、「年に数回程度受診している」が32.7%、「ほとんど受診しない」が22.1%であった。

【問2】（かかりつけ薬局の利用状況）

あなたは、「かかりつけ薬局（※1）」を決めていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=892)



○ 「決めている」が38.6%、「決めていない」が55.7%、「かかりつけ薬局を知らなかった」が5.7%であった。

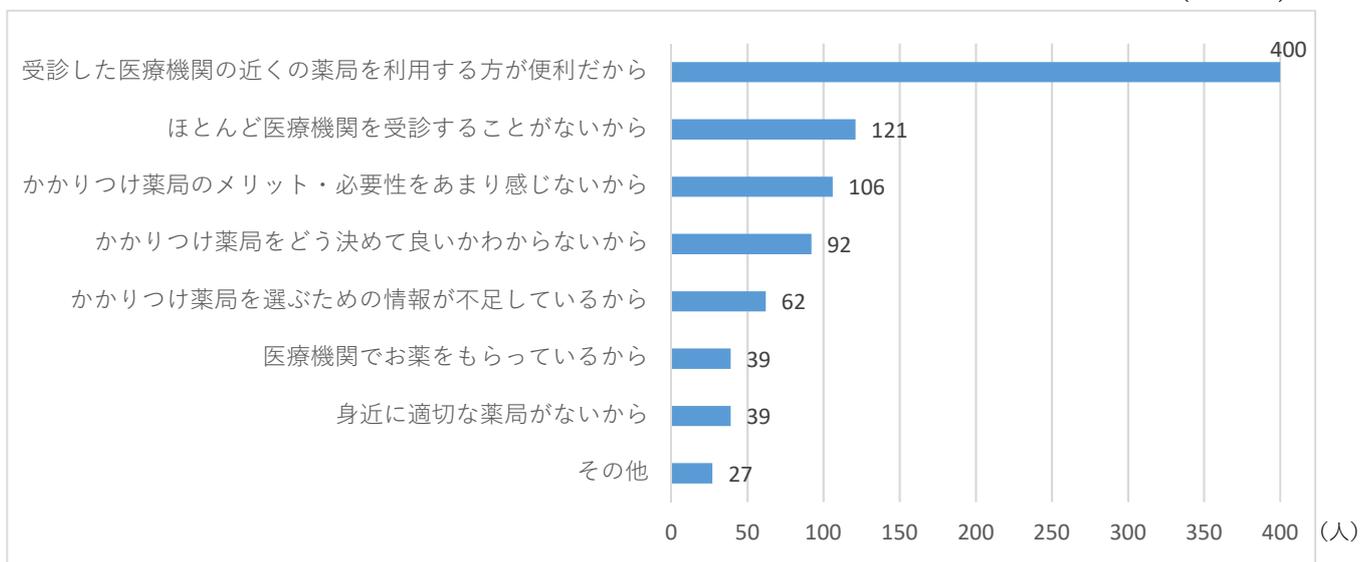
（※1）「かかりつけ薬局」とは

どこの医療機関で薬を処方されても、特定の1つの薬局に処方箋を持っていくこと（薬局）です。1つの薬局でまとめて薬を管理することで、複数の医療機関から同じ薬が処方されていることに気づいたり、相互作用を防ぐことができるほか、市販薬を選ぶ際に過去の副作用歴なども含めて適切なアドバイスを受けられるなどのメリットがあります。

【問3】（かかりつけ薬局を利用しない理由）

あなたが、かかりつけ薬局を決めていない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n=892)



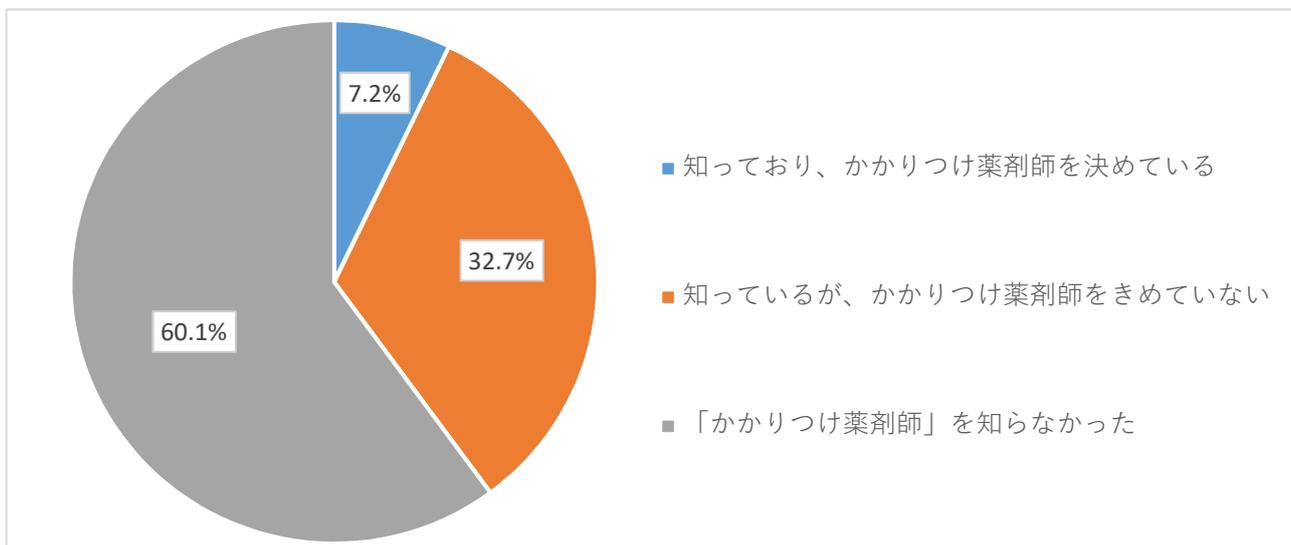
- 圧倒的に「受診した医療機関の近くの薬局を利用の方が便利だから」が多かった。
- 「その他」として、次のような意見が多数挙げられた。
 - ・かかりつけ薬局（近所の薬局等）だと、処方された薬の在庫がない場合がある。
 - ・病院近くの薬局の方が、処方される薬が揃っている。

など、27件の意見があった。

【問4】（かかりつけ薬剤師の認知）

あなたは、「かかりつけ薬剤師（※2）」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=892)



- かかりつけ薬剤師を知らなかった方が60.1%を占めた。かかりつけ薬剤師を決めているという方は、7.2%であった。

（※2）「かかりつけ薬剤師」とは

薬による治療のこと、健康や介護に関することなどに豊富な知識と経験を持ち、患者さんや生活者のニーズに沿った相談に応じることができる薬剤師のことをいいます。

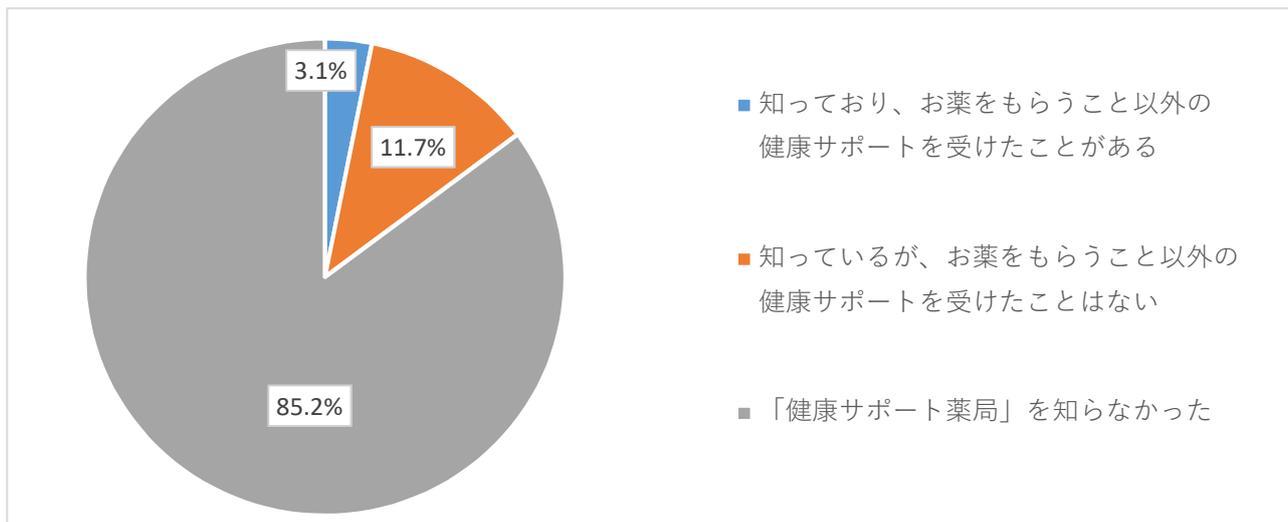
詳しくは、日本薬剤師会ホームページをご覧ください。

日本薬剤師会 HP：<https://www.nichiyaku.or.jp/kakaritsuke/about.html>

【問5】（健康サポート薬局の認知）

あなたは、「健康サポート薬局（※3）」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n = 892)



○ 健康サポート薬局を知らなかった方が85.2%を占めた。健康サポート薬局で健康サポートを受けたことがある方は、3.1%であった。

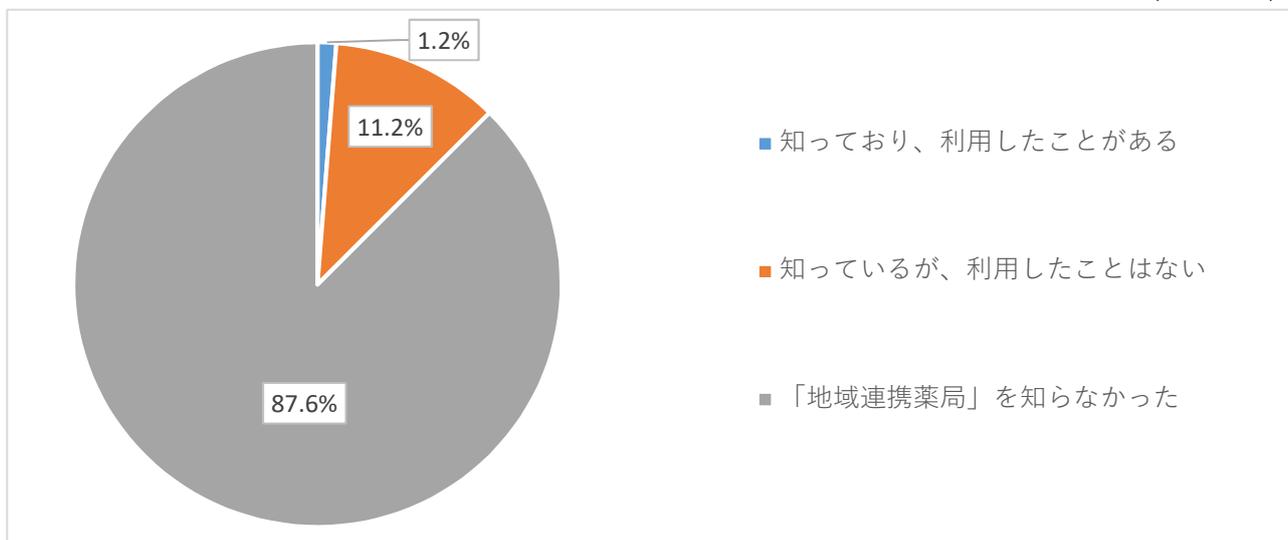
（※3）「健康サポート薬局」とは

かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品に関することはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで気軽に相談できる薬局のことです。

【問6】（地域連携薬局の認知）

あなたは、「地域連携薬局（※4）」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n = 892)



- 地域連携薬局を知らなかった方が 87.6%を占めた。地域連携薬局を利用したことがある方は、1.2%であった。

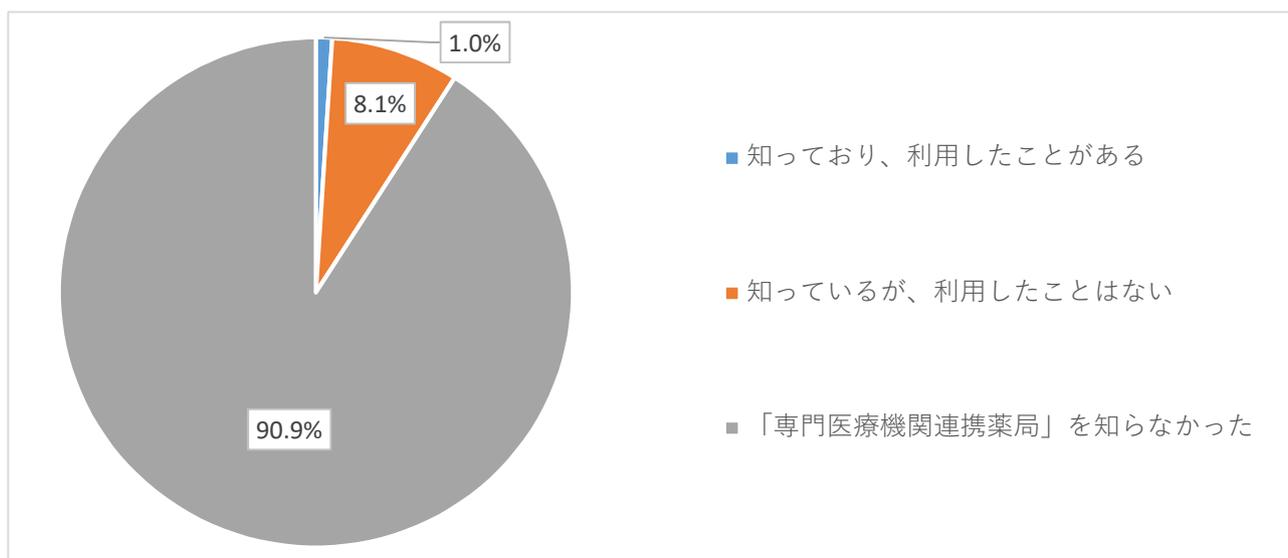
(※4)「地域連携薬局」とは

外来受診時だけではなく、在宅医療への対応や入退院時を含め、他の医療提供施設との服薬情報の一元的・継続的な情報連携に対応する薬局です。地域連携薬局では、在宅医療を受ける方などが、その時々に応じた適切な医療を受けられるようにサポートしてもらえらるメリットがあります。

【問7】(専門医療機関連携薬局の認知)

あなたは、「専門医療機関連携薬局(※5)」を知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=892)



- 専門医療機関連携薬局を知らなかった方が 90.9%を占めた。専門医療機関連携薬局を利用したことがある方は、1.0%であった。

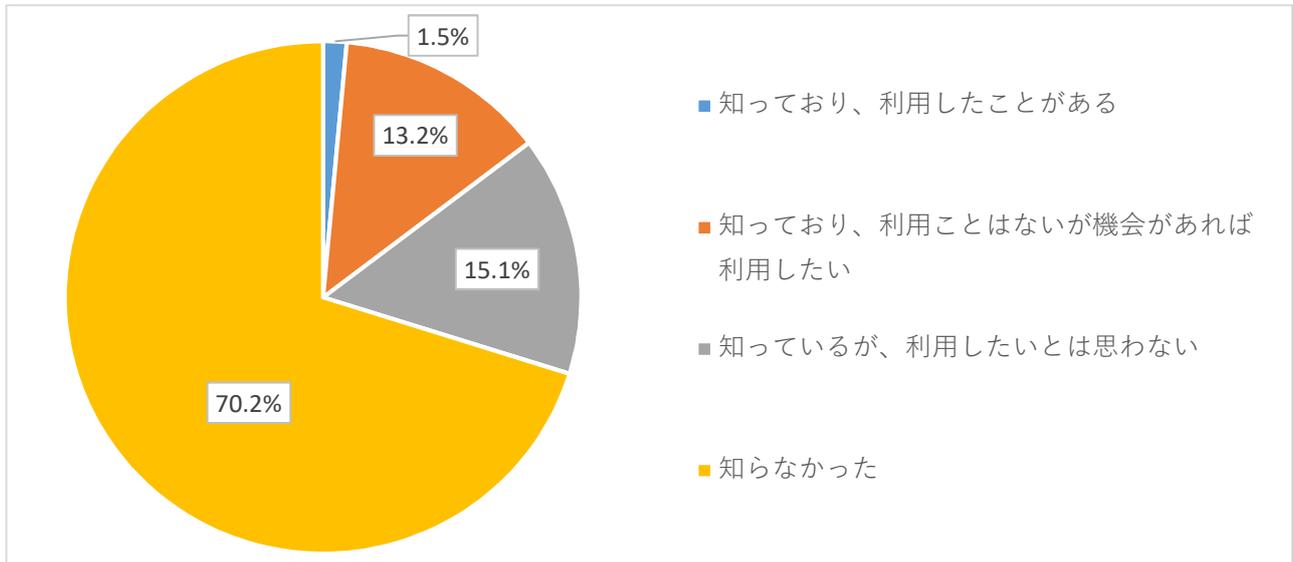
(※5)「専門医療機関連携薬局」とは

がんなどの専門的な薬学管理が必要な利用者に対して、他の医療提供施設との密な連携を行いつつ、より高度な薬学管理や、高い専門性が求められる特殊な調剤に対応できる薬局です。専門医療機関連携薬局では、がんの方などが、その時々に応じた適切な医療を受けられるようにサポートしてもらえらるメリットがあります。

【問8】（薬剤師の在宅訪問）

あなたは、薬局の薬剤師が在宅医療を受けている患者さんの自宅を訪問し、薬の管理などを行っていることを知っていますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=892)

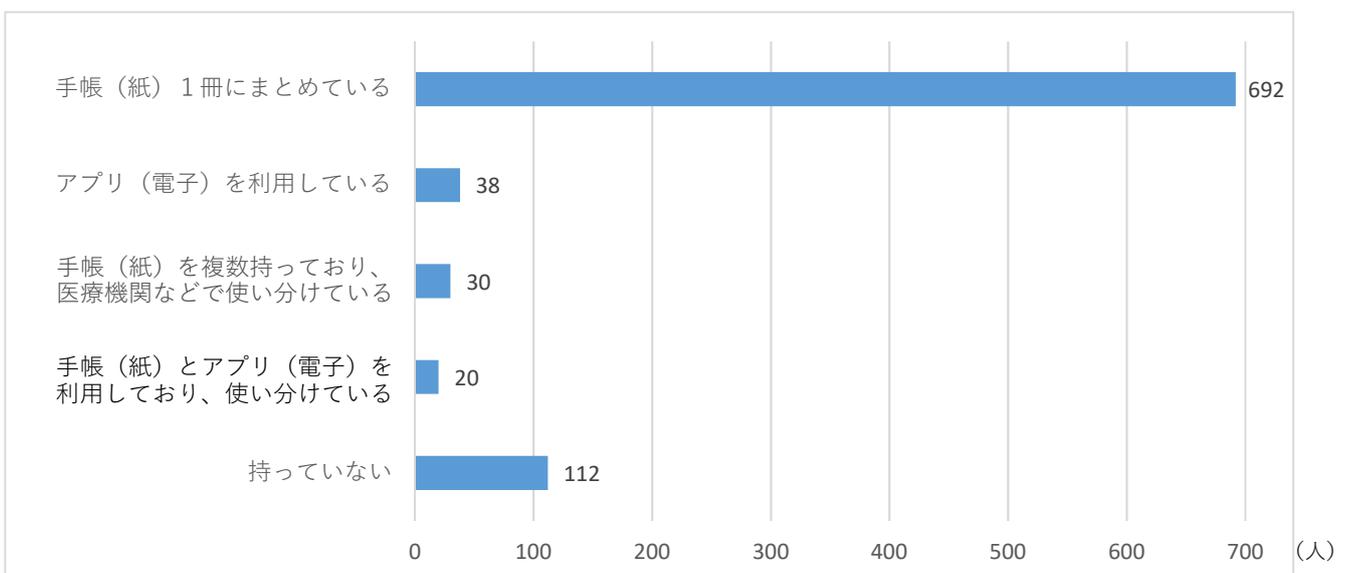


○ 薬剤師が在宅医療の参画していることを知らなかった方が 70.2%を占めた。「知っている」と回答した方のうち、「利用したことがある」もしくは「機会があれば利用したい」という回答は半数であった。

【問9】（お薬手帳の活用状況）

あなたは、「お薬手帳」を活用していますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

(n=892)

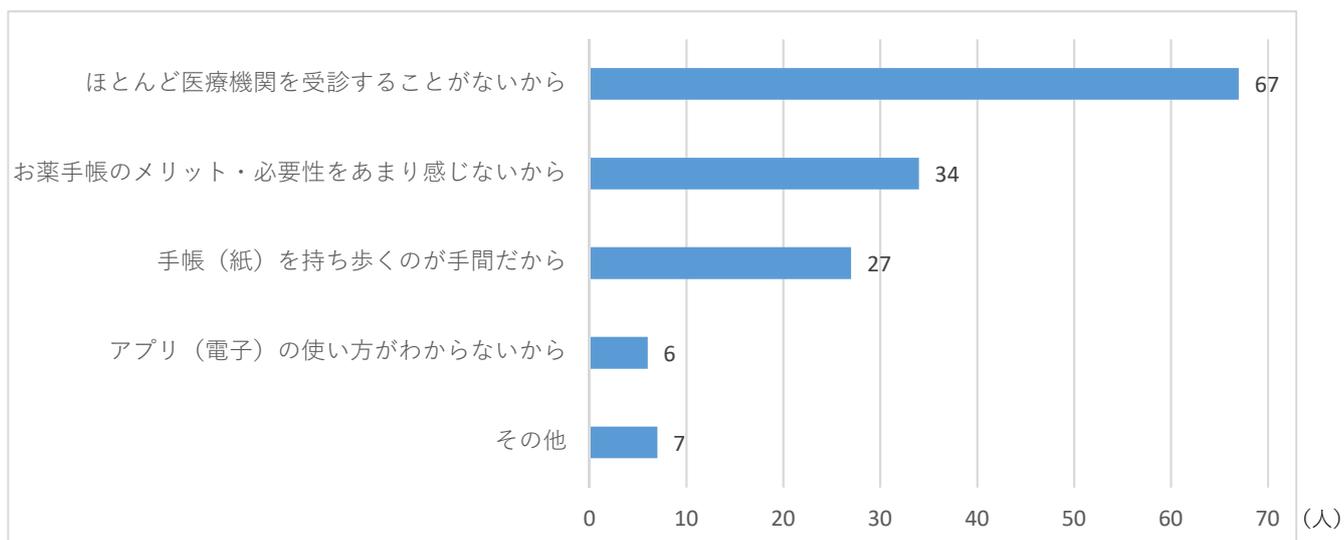


○ 手帳（紙）もしくはアプリ（電子）を適切に活用している方が 730 人(81.8%)であった。一方で、複数の手帳を利用されている方が 50 人(5.6%)、持っていない方が 112 人(12.6%)であった。

【問 10】（お薬手帳を持たない理由）

あなたが、お薬手帳を持たない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

(n=112)



- お薬手帳を持たない理由として、もっとも多かった回答は「ほとんど医療機関を受診することがないから」であった。次いで、「お薬手帳のメリット・必要性をあまり感じないから」が34人であった。
- 「その他」として、次のような意見が挙げられた。
 - ・手帳をすぐになくしてしまうから。
 - ・毎回同じ薬だから。
 - ・欲しいが、どうすれば入手できるかわからないから。

など、7件の意見があった。

【問 11】（自由意見）

その他、「薬局」などについて、自由にご意見をお聞かせください。

○次のような意見が挙げられた。

かかりつけ薬局の問題点

- ・家の近くの薬局を利用したところ、欲しい薬がなく、1日待たされたことがあり、それ以降病院近くの薬局を利用するようになった。
- ・近くの薬局を利用したいが、必要な薬をすぐに入手できない時がある。
- ・かかりつけ薬局を作ったが、処方断られ、他の薬局を利用した経験がある。
- ・子ども連れだと、抱っこ紐やベビーカー、チャイルドシートの乗せ下ろしがあるので、病院近くの薬局が使いやすい。
- ・受診した医師と連携してくれる、病院近くの薬局で処方してもらった方が良いと思う。
- ・仕事後だと近所の薬局は閉まってしまう。また、処方箋の有効期間「4日」は短い。

かかりつけ薬局等の周知要望

- ・かかりつけ薬剤師という制度を初めて知った。よい制度だと思うので広めてほしい。
- ・在宅訪問について、これからの高齢化社会に必要性を感じる。周知していただきたい。
- ・質問にあった薬局について知らなかった。今回知ることができてよかったと思うと同時に、広報の必要性を感じた。特に、必要性の高い高齢者の方が理解できるように広報することが大事だと思う。
- ・地域ごとに、健康サポート薬局などがどこにあるのかを知りたい。

かかりつけ薬剤師について

- ・薬局の薬剤師の入れ替わりが多く、かかりつけ薬剤師を決めるメリットが感じられない。
- ・かかりつけ薬剤師が良い人だったため、当該薬剤師の異動に合わせてかかりつけ薬局を変更した。
- ・情報の精粗や健康活動への関与の程度が薬剤師によってかなり異なる。薬剤師の公平な評価ができるような信頼できる機関があれば望ましい。
- ・薬局の薬剤師は忙しそうで気軽に質問できない。
- ・今の時代の薬剤師は店で待っているのではなく、自宅に訪問し残薬や服薬状況など確認して頂きありがたい。

お薬手帳について

- ・電子お薬手帳は、紙と違い嵩張らずに便利である。
- ・統一した電子お薬手帳が欲しい。
- ・電子お薬手帳を利用したいが、かかりつけ薬局が対応していない。
- ・電子お薬手帳のアプリは便利だが、紙の手帳の方が良い。(見やすい。)

その他

- ・薬局での待ち時間を短くしてほしい。
- ・病院と同じことを聞かれることが面倒である。
- ・プライバシーへの配慮が不足している薬局がある。
- ・料金が不適切である。(不要な診療報酬(加算)を請求される、同じ薬でも薬局によって値段が違う等)

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・結果について関係者に共有し、改善が可能な内容については改善を促す。
- ・かかりつけ薬局については、広く認知されているものの、利用率が4割に留まっていることから、広報誌やラジオ放送、SNS等を活用して、メリットや活用方法などの周知を図る。また、かかりつけ薬剤師、健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局についても、認知度が低いことから、同様に周知を図る。なお、どの薬局が健康サポート薬局等であるかわからないとの意見もあったことから、健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局については、「いばらき医療機関情報ネット」(www.ibaraki-medinfo.jp/yakkyoku/Search/yakkyoku/)により検索できることを併せて周知を図る。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和5年1月6日（金）～1月19日（木）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,308名

回収率：68.2%（892名）

回答者の属性：以下の通り。ただし、百分率表示は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		892	100.0
地域別	県北	70	7.8%
	県央	274	30.7%
	鹿行	44	4.9%
	県南	292	32.7%
	県西	72	8.1%
	県外	140	15.7%
性別	男性	394	44.2%
	女性	498	55.8%
年齢別	16～19歳	11	1.2%
	20～29歳	44	4.9%
	30～39歳	137	15.4%
	40～49歳	235	26.3%
	50～59歳	243	27.2%
	60～69歳	138	15.5%
	70歳以上	84	9.4%
職業別	自営業	73	8.2%
	会社員	318	35.7%
	団体職員	35	3.9%
	公務員	45	5.0%
	主婦・主夫	208	23.3%
	学生	27	3.0%
	無職	97	10.9%
	その他	89	10.0%

(2) 担当課

茨城県保健医療部医療局薬務課（薬事グループ）

電話：029-301-3393

E-mail：yakumu2@pref.ibaraki.lg.jp